

健康への

メッセージ

シリーズ 59

潰瘍はピロリ菌が原因？

光野のみなさんこんにちは。今回は、最近胃や十二指腸に潰瘍をつくる原因ではと話題になっている「ヘリコバクターピロリ」という細菌について、お話したいと思います。

潰瘍というのは胃などの粘膜（内側の壁）が一部削れて、胃カメラで見ると白い窪みのような傷ができる病気です。7〜8年前までは胃酸と胃粘膜を保護する粘液とのバランスが崩れ、胃酸が多くなると粘膜自体を削り取ってしまい潰瘍ができるとされてきました。この説は現在でも有力な説の一つでもあるのですが、最近脚光を浴びている仮説が今回お話するヘリコバクターピロリ菌原因説です。

この細菌は、20年前前に胃の粘膜にもぐり込むようにして存在しているのを発見されました。当初はその菌が何の病気に関係しているのかわからず、あまり注目を集めることもありませんでした。しかしこの菌が胃や十二指腸の潰瘍の患者さんから高率に発見されることが明らかになり、潰瘍の原因ではないかと考えられるようになりました。その後この菌が確かに胃粘膜を障害し炎症を起こすことが証明され、実際にこの菌

を実験的に飲んだ人には強い胃炎が起きたそうです。しかし潰瘍のない人にもこの菌が胃の中から見つかる事もかなりあるようで、いれれば必ず潰瘍をつくるというわけではないようです。しかし潰瘍の原因になる事は確かです。しかし多かれ少なかれ潰瘍の原因になる事は確かです。欧米ではすでに「ピロリ菌によって潰瘍はできる」と考えられているようです。さらにこの菌がガンの原因になっているのではないかとという説もあり、現在様々な研究が行われています。

ではこの菌に対してどんな治療をしたらよいかという事になります。今までの潰瘍に対する治療は胃酸を出なくする薬や粘膜を保護する薬が主流でした。しかしピロリ菌が原因であれば、この菌を退治する治療、つまり抗生物質（細菌を殺す薬）をのめば良いわけです。実際にこの治療はもう始まっているのですが、何でもかんでも治療すれば良いかというとそう簡単にはいきません。最近抗生物質の乱用による弊害が問題になっていきます。（実は最近始まった事でもないのです）（抗生物質が乱用されることで薬が効かない細菌が出現したり、体内にある正常な細菌群が乱されてかえって体調を崩したりする事もあります。また医療費の高騰もバカにできない問題です。）

潰瘍の治療は今までの治療で決して成績が悪いわけではありません。ガンの原因かどうかはまだはっきりしていませんので、今あわてて治療を変えてしまいうより、よく見極めてから始めても決して遅くないでしょう。

今後いろいろな病気の治療が変化していくでしょうが、慌てることなく慎重に対応したいと考えています。

※東陽病院の休日当番日

10月18日(日) 午前9時〜午後5時

医師2名が待機・来院の際は電話を☎1335



東陽病院 鈴木健士 内科医師

中川李枝子 文学講演会



ほんの

＝町立図書館＝
☎843311

講師プロフィール

昭和10年、札幌に生まれる。東京都立保母学院卒業。「いやいやえん」で厚生大臣賞、NHK児童文学奨励賞、サンケイ児童出版文化賞、野間児童文芸推奨作品賞を、「子犬のロクがやってきた」で毎日出版文化賞を受賞。童話に、「森のおばけ」、「ももいろのきりん」他。絵本に、「ぐりとぐら」シリーズ、「そらいろのたね」など多数。



- 演 題 『本・子ども・わたしー 自作を語る』
- 講 師 中川 李枝子 氏
(児童文学作家)
- 日 時 11月3日(祝日)
午後1時30分～3時
- 場 所 図書館2階
ハイビジョンホール
- 定 員 100名
- 申込・問合せ
光町立図書館へ

10月の休館日

4日、5日、10日、12日、19日、26日、30日